

平素は鳥羽商船高等専門学校の教育研究はじめ諸活動へご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。新入生を迎えた4月もあっという間に過ぎ、ゴールデンウィークも終わり、新緑が映えるキャンパスや光輝く鳥羽の海空のもとで練習船での授業や実験実習、さらには課外活動が始まっています。二つご報告します。

一つ目、本校は、校祖近藤真琴翁が明治8年(1875年)9月に芝新銭座二番地(現在の東京都港区浜松町)に航海測量習練所(後の商船黌)として創基し、分校として、明治14年(1881年)8月20日に三重県鳥羽町に鳥羽商船黌として創立されました。その後、私立、市立、県立などの変遷を経て、昭和42年(1967年)6月に国立鳥羽商船高等専門学校となりました。

創立以来、我が国の産業界の変化に対応して順次学科の新設・改組を行い、平成17年4月には本科に加えて専攻科として海事システム学専攻、及び、生産システム工学専攻が設置されました。本科は、商船学科、情報機械システム工学科の2学科体制に移行しています。

卒業生・修了生は、令和4年3月で7,796名となり、海運・海事産業、情報、機械など、我が国の産業界に技術者を輩出し、多くの産業の発展に活躍しています。

令和7年(2025年)は、本校の母体となる航海測量習練所の創基から起算し、150周年の年となります。令和9年(2027年)には本校は高専設置60周年を迎えます。これらを記念回顧し、将来にむけた展望とその実現を期するため、独立行政法人国立高等専門学校機構鳥羽商船高等専門学校創基150周年・高専創立60周年記念事業委員会を組織して活動を開始しました。活動の様子を今後ご報告していきます。

二つ目、本校の産学官金連携活動を促進する目的で「鳥羽商船高専連携協力会」がこの令和4年4月に設立されました。これは、教育や研究活動で日頃からご縁のある産業界はじめ行政や金融機関を含めた各界との技術交流や連携活動を促進し、成果を社会と学生の教育活動に速やかに還元し、本高専の人材育成と一層の社会・地域への貢献を図るものです。具体の活動は、技術相談や共同研究、受託研究、技術者育成支援、鳥羽商船高専で開催する海事、海洋、情報、制御、機械システムなど科学技術に関する研究会や講演会・講習会等への参加、本校教職員による研究事例紹介や学生の創造活動プロジェクト(ロボコン、プロコンなど)に関する交流の場、セミナーなどが企画実施されます。

保護者各位におかれましては、引き続き本校の応援団としてご理解とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止にむけて、三重県からアナウンスされておりますように感染の再拡大を防ぐため、マスク会食・黙食など引き続き感染防止対策の徹底をお願いします。また、ワクチン接種の機会を積極的に活用いただくようお願い致します。